

フキヤミツバ *Sanicula tuberculata* Maxim.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 16。全国的に少ない植物で、愛知県は隣接する静岡県西部と共に分布域の東限にあたる。県内でも個体数が少ない。

【形態】

小形の多年生草本。茎は高さ 8~20cm になる。葉は根生し、長さ 5~12cm の柄があり、葉身は幅 1.5~4cm で 3 小葉に分かれ、各小葉はさらに 2~3 裂する。花期は 5 月、茎の先端に 1 対の葉状の総苞片をつけ、その間に通常 1 個の散形花序をつける。花は小さく緑色、中央部の 1~4 個が雌花、そのまわりが雄花である。果実は長さ約 4mm、先端がかぎ状にならない刺毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：12 新城 (芹沢 91822, 2017-4-22)、13 豊川 (小林 36786, 1992-4-27)、15 豊橋北部 (中西普佐子 3198, 2009-5-12)、17 田原東部 (小林 50484, 1994-4-16)。

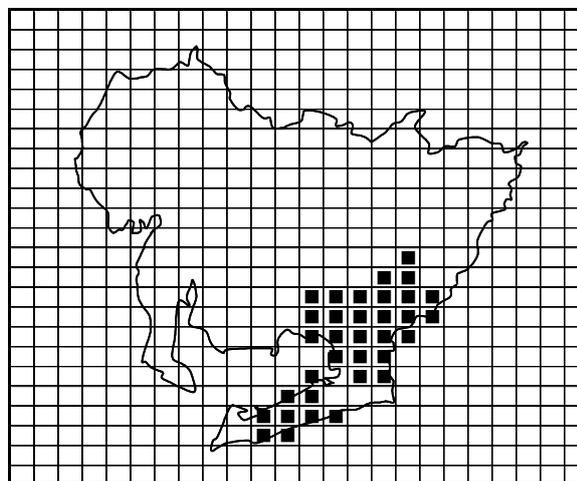
【国内の分布】

本州 (中部地方以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島中南部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地や低山地の明るい林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

以前は点在していたが、どの場所でも個体数は少なかった。森林化の進行により被陰されて減少傾向が著しく、近年生育が確認できたのは 2 カ所だけである。

【保全上の留意点】

疎林状態のやせ山に依存する植物であり、そのような環境の保全が必要である。やせ山や砂丘、湿田のような自然・半自然環境は、そこを利用している、あるいは近傍に住む人に不利益をもたらすため、行政としては今までなるべく消失させるよう努力してきた。しかし、その努力は、一方でそのような環境に住んでいる生物の生活の場を奪い、生物多様性の減少を招いている。住民の利益と生物多様性の保全をどう調和させるかは、今後の重要な課題である。

【特記事項】

目立たない植物なので、調査の際には特に注意を要する。

【関連文献】

保草本 II p.7, 平草本 II p.278, 平新版 5 p.386, 環境省 p.463, SOS 旧版 p.67.